

タイトル	2025 年度 特別選抜（学校推薦型選抜） 共同教育学部（英語専攻） 小論文・面接
評価の ポイント	【小論文】 評価にあたっては、次の観点を重視しました。 ・ 問題のテーマをよく理解し、問われたことに的確に答えているか。 ・ 解答の記述が論理的か。 ・ 解答の論旨が明快か。 ・ 適切な表現ができており、誤字・脱字、綴りの間違いや文章の乱れはないか。 ・ 十分な内容が記述してあるか。指定された分量とかけ離れていないか。 なお、問１では主に、文意を正確につかめているかどうか、問２では課題文の内容を踏まえて自ら考察し、自分の考えを的確に英語で表現できているかどうかポイントを置いた。 【面接】 評価にあたっては、次の観点を重視しました。 ・ 質問に対して的確に答えているか。 ・ 事実をわかりやすく説明することができるか。 ・ 自分の考えを論理的に説明できているか。 ・ 英語での受け答えが十分にできているか。 * 小論文問題に使用した著作物の出典情報 著作者名 David Crystal 書名 The stories of English 出版社名 Penguin 発行年 2004

小論文解答例

問 1

20 世紀後半に生じた英語の変化の中で最も重要な傾向は、世界中の英語圏で新たな標準用法が生まれたことと、民族的少数者の用いる非標準的な英語が出現したことである。同時に、それ以前から南アフリカやインドなどの地域に存在していた英語が、とくに文学を通じて国際的に注目を集めるようになった。これらの新種の英語は **New Englishes** として英語の歴史上大きな存在となるはずだ。少数者の用いる新種の英語といっても、単に使用人口だけでその規模を測ることはできない。地球上に英語人口が 15 億人もいる現在、標準的とされてきたイングランドの英語は、ごく少数の話し手が用いる **World English** の小さな方言ということになってしまうからである。地域差だけでなく、話し手の年齢・性別・職業といったアイデンティティもまた言語の使い方に影響を及ぼす。このように、地理的な差異や社会的な要因によって言語は変化するものであり、英語もその例外ではない。

問 2

We may need some kind of standard English for communication with people speaking different languages, because any first language exercises an influence on English usage. Especially at school, we should think about which variety is suitable for students to learn, so that they can capture important knowledge and information for their future study.

On the other hand, we should never forget that the standard English is also one of the varieties of World English in the 21st century. In addition, we should accept some varieties of New Englishes if we can avoid any trouble communicating with each other.

Japanese English is also one of the varieties of New Englishes. Therefore, it is necessary for Japanese English teachers to understand the difference between English and Japanese, so that their students can use English as an international language to communicate with people speaking other languages.